

第57号

身近な福祉のパイプ役

社協 いくた

(題字 遠藤 恭 筆)

生田地区社会福祉協議会

川崎市多摩区登戸1891

第3井出ビル3階

電話 044(935)5500

発行人 西尾 信

編集総務部



生田地区
社会福祉協議会

会長 西尾 信

ご挨拶

生田地区にお住まいの会員の皆様には日頃より生田地区社会福祉協議会の活動にご理解・ご協力ご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

令和7年度の活動につきましては、5月26日の総会にて承認いただきました「事業計画」全てに取り組むことが出来ました。これも参加いただいた会員の皆様のご協力、そして対応した、役員、理事、行政、ボランティアの皆さんの連携の結果と重ねて感謝申し上げます。

日本の社会は「少子高齢化・お一人様世帯の増加」といった社会環境の中で地域福祉の要望は拡大しています。

令和8年度は地域に密着した活動に取り組み一人でも多くの仲間の皆さんとふれあい「楽しむ場」また、「遊ぶ場」を実現出来る様取り組んでまいります。

当協議会では、市社協活動方針のもと、関係機関、関係諸団体と連携し、地域の皆さんがお互いに助け合い、安全で安心して暮らせる「地域共生社会」の構築に新体制で努めてまいります。

会員の皆様には引き続き、ご協力、ご支援をお願い申し上げます。

赤い羽根共同募金を通して学んだこと

今回私は「赤い羽根共同募金」のボランティア活動に参加しました。参加を決めた理由は、今までは募金する側でしたが、中学生になりボランティア活動として募金をしてもらおう側になることに興味をもったからです。また学校内では学級委員として活動しているため、学校外でも枳形中学校の顔になりたいと考えこの活動に参加しました。実際に募金をしてもらおう側になるとたくさんの気づきがありました。

「暑い中お疲れ様」と声をかけてくれる高齢者の方や、中には赤い羽根をもらっていないのにも関わらず「気持ちだけで十分」と募金をしてくださった方も多く、また今回の活動を通し、集まった募金の使い道についても考えさせられました。集まったお金は、私たちの生活や地域のために

使われています。地域の高齢者の見守り活動、子育て支援、障害者福祉、そして災害時のボランティア活動の資金などに活用されています。私は特に、災害時のボランティアにお金を使っていたきたいと思っています。

自分の活動が、地域の人々や未来につながっていると考えると、活動に対する達成感と責任感をもつことができました。初めは駅という場所で大きい声を出して呼びかけることに抵抗がありましたが、自分ができることから行動に移すと、足を止めて募金をしてくれる方がたくさんいる、またそれが自分自身の成長にもつながっていることを実感しました。

今回私は、誰かのために行動をすることは周りの人に影響を与えるだけでなく自分の視野が広がり、成長にも繋がるのだということを学びました。

[枳形中学校1年 新名和愛]



● 総 務 部 ●

総務部は組織全体の理事を対象にした「理事研修会」と、協賛会員の皆様をはじめ担当エリア内の区民の皆様を対象にした「福祉感謝のつどい」の実施。さらに我々社協の活動内容を広く一般の皆様へ伝える広報紙「社協いくた」の発行が主な活動の柱です。その他、総務部担当者のための「部会研修会」の実施や他地区社協との交流会の企画等を行っています。

令和7年度の「理事研修会」は7月4日(金)に実施し「山梨県立防災安全センター」を訪問しました。ここでは過去に起きた兵庫県南部地震(阪神淡路大地震)などの5つの地震の再現と、南海トラフに起因する地震を想定した揺れを体験しました。

起震機の上には実際のリビングにある様なテーブルと椅子だけしかなく、体を支えるところがない状態での揺れの怖さを体験することができました。また、火事で煙が充満した建物内を、右手で壁を手探りしながら避難する訓練を全員が体験。建物内では非常口の位置を常に意識することの重要性を学びました。午後は桃狩りと食べ放題を体験。異常気象で高温が続いたため、桃の実に当たり外れが多かったものの、楽しい時間を過ごしました。

「福祉感謝のつどい」は9月12日(金)に多摩市民館3階の大会議室で実施しました。お天気が心配でしたが多くの方々にご来場いただきました。途中休憩を挟んだ二部構成で、第一部は落語家の立川ういん氏

の落語。ういん氏は立川流立川志らく門下のプロの落語家。横浜ご出身で多摩美在住。

「2024年川崎市百周年の百人」に選ばれています。当日は我々スタッフとともに高座の設営をされ、声が届きやすい椅子の並べ方を工夫する姿から落語に対する熱い気持ちが伝わってきました。本番の話の中に我々社会福祉協議会や民生委員の活動の事や、第二部に参加するコーラスのメンバーとの不思議なご縁のエピソードを交えるなどで客席との距離を縮める話術は流石でした。

第二部は麻生地区社協との交流で知った「チョコっとコーラス隊」の女性合唱。このグループは東柿生小学校の保護者仲間から始まったコーラスグループです。今では保護者の枠を超えて仲間が集まり、一昨年に結成10周年の記念コンサートを開催されました。「大好きな東柿生」に始まり「365日の紙飛行機」など数曲を歌った後、客席の皆さんと「手のひらを太陽に」や「故郷」を歌い、大盛り上がりで終了しました。後日、演者の方々からスタッフの丁寧な対応に対して感謝の言葉と社協の活動に感銘を受けたとのメールがスタッフに届いたこともここに



記しておきます。

[橋本利明]

● 第41回お年寄りのつどいに参加して ●

「お年寄りのつどい」は生田地区社協が主催する一大イベントです。コロナ禍以前は生田小学校体育館で開催されていました。体育館の壁には趣味の作品が展示され、昼食を挟んで一日がかりでした。体育館には300人以上があつまり、出演団体は20チーム以上ありました。



ところがコロナ禍で、老人会の開催や演芸の練習がままならなくなり、令和元年を最後に休止を余儀なくされました。再開できたのは令和4年38回でした。

翌年の第39回は、生田小学校の周年行事と重なり、新しく会場になったのが多摩市民館の大ホールです。今年は11月18日(火)に17チームが参加し開催されました。

ここで小生も初めて鑑賞側から歌の部門で参加してみました。舞台上で歌うといつもと違う響きで、とても気持ち良く歌うことができました。

老人会の立場から考えると地区の老人会にとって、またとない行事です。声を出すこと、踊ることなどの老人クラブ活動は、地域福祉活動であり、長生きするために最高です。今後もよろしくお願いします。

[生田地区老人クラブ連合会 会長 望月俊男]

● 青少年福祉部 ●

第51回「中学生が語る会」を令和7年12月5日、生田中学校、枳形中学校、南生田中学校の生徒合わせて36人と共に生田出張所で開催致しました。テーマは『住みよい街を目指して～「ありがとう」のあふれる街に～』です。生徒は3つのグループに分かれ、



①「ありがとう」と言われたか ②「ありがとう」と言われてどのような気持ち? 何が得られる? ③ 何故「ありがとう」のあふれる街にするの?

を議論しました。生活の中で沢山の「ありがとう」の場面が出てきてとても感動しました。「ありがとう」の言葉が自信になり信頼になり、笑顔が連鎖して人間関係が良くなり、良い循環が築けるから、地域にも「ありがとう」を広げる活動がしたいと、力強い意見を聞く事ができました。私たち大人も「ありがとう」にあふれる街になるよう中学生と一緒に考えたいと思います。地域との交流や赤い羽根共同募金等、



生徒さんが活躍できる場を一緒に実現していきたいと思ひます。

[佐藤淳子]

● 婦人幼児福祉部 ●

私達は、毎月第3木曜日、生田中学校創作センターで子育てサロン「ニコニコ広場」を中心に活動しています。近年、育休中に参加される方が増え保育園が決まると4月には復職され参加人数が減ります。一人でも多くの方に参加してもらいたいと手袋シアター・絵本の読み聞かせ・季節製作物や時には保育士、保健師、歯科衛生士をお招きし内容を工夫して地道に声かけをしています。誕生月は写真を撮り手作りのカードをプレゼントして皆さんに喜んでもらっています。



令和7年の研修は10月に至誠館さくら乳児院へ17名が参加しました。この施設の創立は15年前。様々な事情により家庭で生活できない乳幼児を「預かりの家」として安定した養育の場を提供する事を目的としています。施設長から、増え続けるネグレストや虐待など様々な話しを聞く事ができ、このような施設に入らざるを得ない子供達がいる事を忘れてはならないと思ひました。



[瀧 佐智子]

● 会食会委員会 ●

生田地区社協の「会食会」は、お一人暮らしの高齢の世帯を対象に、地域の身近な場所で共に食事をしながら楽しく元気に交流していただくことを目的に、年6回実施しています。皆様に喜んでいただけるよう、班ごとにお弁当や余興を考えています。お弁当は試食をし、お食事全体の色合いや季節感のあるデザート



など、毎回スタッフが話し合っで決めています。長い間、会場は「枳形いこいの家」と「錦ヶ丘いこいの家」でしたが、生田地区は広い上に山坂があり会場にいけないとの声がありました。そこで様々な努力の結果、



令和元年より長沢自治会館、令和6年より生田出張所でも実施できるようになりました。長沢自治会館で11月

に行われた会食会の余興はパルーン(風船)アートでした。講師の方が音楽に合わせて風船をひねり、動物や果物などを次々と作りあげていきます。帰り際、可愛い風船のお土産を手に「おいしかった」「楽しかった」とお声をかけていただきました。これからもたくさんの皆様のご参加をお待ちしています。

[原山三枝子]

● 高齢者・障がい者福祉部 ●

恒例の「長寿をたのしもう」を本年度も8会場で行いました。総参加者236名と多くの方に参加いただきました。

各会場とも、健康体操とレクリエーションをしました。健康体操は椅子に座ってできる簡単なもので皆さん笑顔で、身体を動かされていました。レクリエーションは各会場毎に歌とバンド演奏・手作り楽器演奏・シャンソンとバラエティに富んだもので、皆さん一緒に手をたたいたり歌ったりと楽しんでいました。内容の一例として長沢会場を紹介すると、健康体操は地元の「はなまる元気塾」小田先生による転ばないためのバランスの取り方や正しい歩き方を和気あいあいのなか学びました。シャンソンの曲目はお馴染みの曲から初めて聞く曲と幅広く、アンコールも受けてもらい喜ばれました。

最後に本年初めて取り組んだ障がい者施設の利用者参加について紹介します。実施した東生田会館ではKFJ多摩から利用者と世話役の計8名参加され利用者が溶け込み易いように演目を入れ替えたり工夫



りで大いに盛り上がりました。帰り際に「楽しかった」と一声があり実施して良かったと思ひました。来年度も引き続き取り組みたいと考えています。

[米山 明]

おじゃまします 地域での取り組み 一致団結あやめ会

私たちの町「生田あやめ会」は、稲毛七福神の一つ「毘沙門天」がある安立寺の麓にあり、昭和33年に設立されました。その当初から住んでいる方や生まれも育ちも「あやめ会」という方（私も妹も子供たちもあやめ会育ちです）が多いため、年を重ねても「〇〇ちゃん」と昔からの呼び方で呼び合う関係もみられるなど、温かい雰囲気のある町会です。あやめ会は、ほとんどが私道なので、子供たちは自転車に乗る練習もボール遊び、鬼ごっこも安全に安心してでき、それを温かく見守る大人の姿もあります。

また、花見や夏祭り、餅つき等の季節ごとの行事が盛んなこともあやめ会の特徴です。行事を通して、子供から高齢者まで、世代を超えたつながりが自然に生まれ、絆が深まり、誰もが楽しく過ごしています。生田地区運動会では、ここ数年大縄跳びを通して「生田あやめ会」が有名になったことと思いますが、ターナー（回し手）は、過去20年くらい変わっていません。それが記録につながっているのです。

練習会ではパパやママの跳ぶ姿をみた子供たちが「次は僕たちが、少し大きくなったら新記録を作るぞ」という気持ちになり、世代間の交流になっています。どんなことに対しても一丸となって挑む姿勢、団結力もあやめ会の誇りの一つです。

70世帯という程よい規模だからこそ、お互いの顔と名前が分かり、日頃から挨拶が行き交う安心感のある関係が築かれているのだと思います。これからも、人と人のつながりを大切に、子供たちが「大人になってもここで暮らしたい」と思えるよう、誰もが気持ちよく暮らせる町会を皆で創っていきたいと願っています。 [生田あやめ会会長 杉本眞智子]



令和7年度 生田地区社協事業報告

次のとおり事業を実施いたしました

- 5・29 第1回高齢者会食会（錦ヶ丘老人いこいの家）
- 6・11 賛助会員募集活動
- 7・4 理事研修会（山梨県立防災安全センター）
- 9・12 福祉感謝の集い（多摩市民館）
- 9・24 長寿をたのしもう（生田出張所大会議室）
- 9・25 第2回高齢者会食会（研形老人いこいの家）
- 10・3月 赤い羽根共同募金活動
- 10・1・3 赤い羽根共同募金 街頭募金活動
（生田駅、読売ランド前駅）
- 10・7 長寿を楽しもう（土淵倶楽部）
- 10・16 長寿を楽しもう（西三田田地集会場）
- 10・24 婦人幼児福祉部 視察研修
（至誠館さくら乳児院）
- 10・17 長寿を楽しもう（東生田会館）
- 10・23 長寿を楽しもう（大作自治会公民館）
- 10・25 長寿を楽しもう（錦ヶ丘老人いこいの家）
- 10・27 長寿を楽しもう（南生田中学校）
- 10・29 長寿を楽しもう（長沢自治会館）
- 11・7 第3回 高齢者会食会（長沢自治会館）
- 11・15 第4回 高齢者会食会（生田出張所）
- 11・18 第41回 お年寄りのつどい（多摩市民館）

12・4 高齢者・障がい者福祉部 視察研修会
（横浜市民防災センター）

12・5 第51回 中学生が語る会（生田出張所）

1・20 第5回 高齢者会食会（研形老人いこいの家）

2・26 第6回 高齢者会食会（錦ヶ丘老人いこいの家）

3・31 広報紙「いくた」第57号発行

毎月第3木曜日子育てサロン「ニコニコ広場」（10月を除く）

『賛助会員募集』

賛助会員とは、多摩区社会福祉協議会と多摩区内の生田地区社会福祉協議会を含めた5つの地区社会福祉協議会（登戸・菅・中野島・稲田・生田）が進める地域福祉活動の趣旨にご賛同頂き、一口1,000円の賛助会費を納めていただくことで地域福祉活動を支援していただくものです。

令和7年度は6月から町会・自治会の協力のもと募集活動を行った結果、個人団体から1,275,100円（2月20日現在）が生田地区内で集まりました。（昨年度より87,000円減）ご協力いただきました皆様には心からお礼申し上げます。

『共同募金運動』



令和7年度生田地区分会実績（戸別募金）
赤い羽根共同募金 2,908,508円（2月20日現在）
赤い羽根共同募金 2,207,120円（2月20日現在）
年末たすけあい募金 2,207,120円（2月20日現在）
皆様からの募金は地域の社会福祉に役立てられます。ご協力ありがとうございました。